

ミュージアムエデュケーター研修講義
博物館教育論

布谷知夫(三重県立博物館)

日本の博物館教育

- 1872(明治5)年 文部省博物館
- 1877(明治10)年 教育博物館
全国各地に教育博物館が作られた
- 明治中期から文部省は公教育を独自に
博物館はアマチュアの利用を強めていく
学芸員の専門性のもとに人が集まる

日本の学芸員とエデュケーター

欧米のような職務分担になぜならなかったの
 だろう
 今後どういう分担が可能なのだろうか

博物館の職務分担

- Director
- Collection and Research
- Visitor
- Administration, Management and Facilities

(ICOM, 2008, Museum Professions -
 A European Frame of Reference)

- **Collection and Research**
 Curator
 Inventory Coordinator
 Registrar
 Conservator
 Curatorial assistant
 Document center manager
 Exhibition and Display Curator
 Exhibition Designer

- **Visitor**
 Manager of the Education and Visitor service
 Education manager and Visitor service officer
 Visitor care and security manager
 Visitor care and security assistant
 Library and media center manager
 Web master

- **Administration, Management and Facilities**
Administrator
Facility and security management
IT manager
Manager of marketing promotion and fundraising
Press and media officer

- 1980年代頃からの欧米でのエドゥケーターの台頭
- 1990～2000年ころ、日本での博物館教育への注目
 学芸員では対応できないような博物館教育への期待
- 2011年 初めての文化庁によるエドゥケーター研修

- 博物館教育を考える前提**
- 博物館はすべての地域の人々を対象とする
 - これからの博物館は参加型で運営されるべき
 - 博物館のすべての事業への参加は、利用者にとっては教育学習が目的である
 - 伝統的な博物館の資料や研究は、教育学習の背景であり、切り離しては考えられない。

- 博物館教育の目的**
- 博物館の「自由な学び」の目的は「知識の伝達」だけではなく、「自らが考え、発見する喜びを体験」することができる機会を作ること
 - 知識を伝える学芸員
 - 考える機会を作るエドゥケーター

- 22年度のプログラム(ティーンズプロジェクト)**
- 「大人になっても残しておきたい地域の宝・魅力さがし」
- 1 参加者募集
 - 2 取り組みについての説明会
 - 3 夏休みにグループごとに分かれて調査
 - 4 成果発表・交流会
 - 5 子ども会議
 - 6 「みんなでつくる博物館2010」で発表

調査の手順

- 1 グループで話し合う
- 2 事柄やモノに対する情報・記録を探す
- 3 地域の人たちから話を聞く
- 4 モノから情報を引き出す
- 5 資料と情報を整理して分析する
- 6 伝えたい魅力をみんなに紹介する
- 7 まとめた内容は新博の資料にする

調べたテーマ

- ・ アグリ公園の古い井戸のナゾ
- ・ 海の調査～松名瀬海岸～
- ・ 津に落とされた焼夷弾
- ・ 「三重県能楽発祥」説の真偽を調べる
- ・ 東海道を歩く～鳴海から桑名まで～
- ・ 学校を建てるときに発掘された遺跡
- ・ 玄関のしめなわの調査
- ・ 松阪を歩いて昔のことを聞こう
- ・ 日本家屋を調べよう



子どもたちの声

- ・ 今まで知らない友達や楽しい体験がたくさんできてよかった。
- ・ 博物館がここまでがんばって楽しめる工夫をしていることを知らなかった。
- ・ 博物館に興味はなかったが、また行って見たいと思うようになった。
- ・ もっと調べたかった。
- ・ 知らなかったことを自分たちで調べ、わかってきたことが楽しかった。
- ・ 研究をするのは楽しいと思った。
- ・ 博物館は勉強するだけだと思っていたけれども、とても楽しいところなんだと思いました。

伯母川博物館づくり

- ・ 地域と学校と博物館とが一体になって、地域の公民館に博物館を作る活動。
- ・ 学校と公民館と博物館との連携事業
- ・ 志津川倶楽部、子どもエコクラブの誕生
- ・ 事前学習(4月)
伯母川での調査
まとめとシンポジウムの開催
公民館の祭りにあわせて伯母川博物館を1月開催

伯母川調査



シンポジウムと展示準備



展示室



展示室



学校と博物館との学びの違い

- 学校 強制的 集団的 画一的
マニュアルとカリキュラム
学校教育の目的は、社会人として暮らせる人を育成すること
- 博物館 自主性 個人 個別的 マニュアルなし
博物館での教育活動の目的は、自立した個人の育成

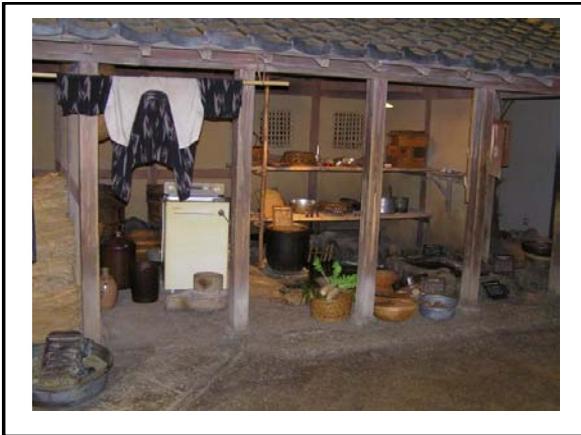
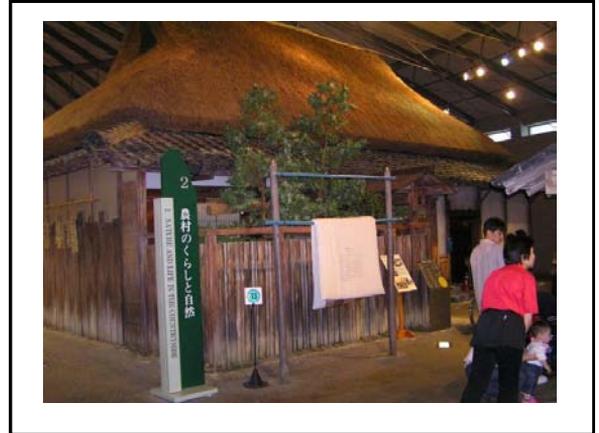
何か疑問が起こった時

- 学校 その答えを教える
- 図書館 それが掲載されている本を探して、示す
- 博物館 答えを調べるための方法を一緒に考える

展示室での学び

- 展示のタイプ
知識・情報を伝える場
くつろぎ、楽しみの場
自分について、自分の暮らしについて考える場





- 展示室は、受動的な観覧者に一方的に知識を伝える場から、
- 能動的な観覧者から、意見を聞く双方向の場となり
- 新しい価値を考え創る場となってきた
(フーパー・グリーンヒル)

博物館の新しい役割を担うのはエドゥケーター

- 地域社会における街づくりから、安定した市民社会、民主主義社会の形成まで
- 博物館の社会的な役割を問われる時代。逆に博物館こそ、現代の社会の中で、社会的な課題を解決できる場としての自覚。
- そういう中で教育学習活動は、安定した市民社会、ソーシャルキャピタルの形成、民主的な社会の形成などの課題が浮かび上がっている。

- 以上です。ご清聴ありがとうございます。